2022年3月15日号（通巻87号）

NITTOSEIKO 日東精工 ニュースレター

京都府綾部市井倉町梅ヶ畑20番地／日東精工株式会社経営企画室発行

安価かつコンパクトな水専用流量計を新たにラインナップ「小型アクアメータWE」を新発売しました

当社は水の小流量計測に最適な容積流量計「 小型アクアメータWE 」を新発売しました。
低価格で導入しやすいロータリーピストン流量計です。
今号はこの「小型アクアメータWE」の開発背景や製品の特長を簡単にご紹介します。

当社の歴史をさかのぼると水道メータの製造販売が事業のスタートでした。当社のいわば原点である流量計は、現在5分類23種を製造販売。船舶関係、石油関係ほか食品、飲料、自動車、官庁と幅広い分野に採用されています。今回、これまでになかった小型で低価格帯の水専用流量計をラインナップに加えることで、従来のお客様のニーズによりきめ細やかに対応し、また新規お客様の獲得にもつなげようというものです。

もちろん安かろう、悪かろうではお客様の信頼を失ってしまいます。この「アクアメータWE」は従来製品のパーツをベースとして活用することで、コストを抑えることを実現したものです。安価とはいえ精度と耐久性は高いレベルを維持しています。ロータリーピストン流量計の原理は機械（流量計）内部に回転子を入れ、それが1回転するごとに中の水が排出される仕組みで、これをひと升として量を計算していくものです。この回転子の滑りの良しあしが流量計の精度や耐久性に影響します。今回の計測対象である水は潤滑性が低いため、流量計の回転子をスムーズに回転させ、精度、耐久性を確保するのは容易ではありません。そこで「アクアメータWE」の回転子には、耐久性の高い特殊PPS樹脂を採用。またこの回転子が傾かないように（傾くとそれだけ精度が落ちていきます）、小型流量計にも搭載できる軸受けを開発しました。

温めてきた種々のアイデアを試していくなかで、「小型で低価格の水専用流量計」の最適解を導き出すことができました。なお、この軸受けについては今後別モデルにも取り入れ、より高精度な流量計の開発に活かしていく予定です。

■製品特長

1. 安価かつコンパクトな設計

徹底したコスト削減により、低価格を実現。省スペース設計により、限られた狭い場所に設置可能

2. 耐久性に優れた製品

ロータ材質に特殊ＰＰＳ樹脂を採用することにより、潤滑性の低い流体である水の計測に対して優れた耐摩耗性を発揮

3. 扱いやすいシンプル機能

操作は液晶カウンタ前面のリセットキーのみ。流体を計測するために複雑な設定・操作は必要なし

4. 外部電源不要

液晶カウンタは内蔵リチウム電池で駆動し外部電源は一切不必要。電池寿命は７年以上で長期間にわたり安心して使用が可能

NITTOSEIKO'S SDGs（サステナビリティ経営推進）

若手社員が自主交流会「わ会」を開催しました

当社と同じく本社を綾部においている上場企業のグンゼさんと綾部市役所さんとご一緒に今般、若手社員の交流会「わ会」が発足しました。

これは1990年代以降生まれ、入社1～4年目の社員が会社の枠を超えてお互いのことをもっと知ろう、そして一緒に新しいものをつくりだそうと、自主的にはじめたものです。自主交流会の「わ会」は「若手」「和」「輪」、そして長く続く取り組みになることを願う「輪廻」からネーミングされたものです。

当社会議室で開催された第1回の会合を、地元のあやべ市民新聞が取材。「いわゆるZ世代の新しい試み。自分たちが力を発揮できる場を自分たちでつくろうとする好例」と高く評価いただき大きく紙面で取り上げられました。またすでに第2回の会合はグンゼ、第3回は綾部市役所でと会合の日程も決まっており、それぞれが業務上の工夫や失敗談を紹介し合うほか、プロジェクトのマスコットキャラクターを作成したり、「綾部のこうだったらいいな」についても話し合う予定です。もちろん、これまでもたとえば商工会議所の活動や各種研修などで中堅社員、役職クラスがご一緒する機会は多々ありましたが、グンゼさんと当社の2社が核になって市役所も入った若手交流会というのははじめてのケースとなります。自主交流会ですが、社としても見守りつつ温かく応援し、新たなつながりが地域に大きく広がっていくことを期待しています。

あやべ市民新聞　2022年(令和4年)1月17日　月曜日　第5640号　(4)

市民けいざい

プロジェクト名は「わ会」です

グンゼ 日東精工 市役所

若手従業員が自主交流会

垣根を超えた関係作りたい

1月17日付あやべ市民新聞

日東精工は国連のSDGsの理念に共感しています

ねじ大好き！ コラム　受験生応援ゆるみ止めねじキャンペーン 今年もたくさんのご応募をいただきました

当社の樹脂用ゆるみ止めねじ「ギザタイト」を最後までゆるまないで集中力持続できる、実力発揮ができるシンボルとして受験生にプレゼントをするキャンペーン。今年度も、昨年の12月、そして今年1月、2月と三回に分けて募集。これまで過去7回と同様に個人の受付のほかにグループや学校単位の受付も行い、今年度は6,559本の受験生応援ねじをお贈りいたしました。これまでの累計で4万2,192本となります。

「志望校に合格しました！」という喜びの声が続々届いているほか、今年度は脱炭素を意識しこれまでのプラスチック袋を紙に替えたのですが「この紙でできた赤い鳥居のデザインがかわいい」という声も届きました。毎年、少しずつ手を加えバージョンアップを図っていることに、しっかりと反応が返ってくることに喜びを感じています。

当社の営業担当や総務担当が各地の学校をたずね生徒さんに直接手渡しをして交流をはかるといったことをしていましたが、残念ながらコロナ禍で控えざるを得ないなか、地元、綾部高校には波が少し収まったタイミングで、感染防止対策をしたうえで、直接お渡しすることができました。

4月4日より 東京証券取引所プライム市場へ

東京証券取引所のこれまでの市場区分（東証1部、東証２部、マザーズ、JASDAQスタンダード、JASDAQグロース）が再編成され、本年４月４日から「プライム」「スタンダード」「グロース」の３区分へ変更されます。当社は「東証1部」から「プライム市場」へ移行することとなりました。「プライム市場」は持続的な成長と中長期的な企業価値の向上にコミットする大企業を対象とし、これまで以上により経営の透明性などが求められるトップカテゴリーです。当社ではこれまで同様に「お客様満足度120％を目指す」姿勢を変えることなく、サステナビリティ経営をより推進させ、さらなる企業価値の向上に努めてまいります。

次世代若手技術者養成プログラムを本年4月からスタートさせます

当社では理系の大学生を対象に学費を無利子で貸与し、卒業後、当社に入社する場合は返済不要という奨学制度を設けていますが、次代をになう若者の学びをより応援したく、本年４月からは新たな「日東精工次世代若手技術者養成プログラム」をスタートさせます。

1) 次世代の若手技術者として育成することを目的に、2)「自己成長」の喜びを日東精工の社内で実現するプログラムとし、3) 地元地域の次世代育成という貢献活動の一環とするもの。具体的には高校卒業の新人から選抜した１名を２年間、給与を補償し、また学費全額免除で舞鶴市の「ポリテクカレッジ」に２年間通学させるというものです。すでに１名選抜済みで入学準備を進めています。

健康経営の取り組みが評価され、「スポーツエールカンパニー2022」に認定

当社は連結子会社の日東公進㈱とともに、１月26日付で「スポーツエールカンパニー2022」の認定を受けました。スポーツエールカンパニーとは従業員の健康増進のために「スポーツの実施に向けた積極的な取り組み」を行っている企業を認定する制度です。当社は2019年から始まった中期経営計画「NITTOSEIKO Mission“G”」の戦略テーマにも「健康経営」の概念を盛り込み、社員のQOL（生活の質）向上に取り組んでおり、昨年2021年に続いての2年連続の認定となりました。

SPORTS YELL COMPANY 2022

『絆経営で目指す新しい地方創生』が読書研修会のテキストに選ばれました

一般社団法人「日本計量機器工業連合会」の研修会のテキストとして、当社代表取締役社長材木正已の著書『絆経営で目指す新しい地方創生』が選ばれ、「日本計量機器工業連合会」からは、リモートでの参加もあるハイブリッドな形で研修が行われたとご報告をいただき、研修参加者の感想文も送付いただきました。いずれも丁寧に読み込んだうえで自身の考えを深めた内容になっており、こちらも勉強になりました。当社では今後も「人財教育」を時代に即していくようブラッシュアップしてまいります。

from 社長室

正己語録㊿

ほんものを究めようとすると次のテーマが生まれる

皆さん、「和がらし」はご存じですね。

いうまでもなく、おでんや豚の角煮、トンカツ、あるいは菜の花のからし和えなどに欠かせないスパイス・調味料です。「洋からし（マスタード）」に対して「和」がつくから、当然、純国産と思いきや、その原料となるものは99・999%が外国産なのだそうです。

「からし」はからし菜の種を乾燥させてつくります。からし菜の種類によって、あるいはそのブレンドの違いで「和がらし」であったり「本がらし」であったり、酢や蜂蜜などを加えた「マスタード」になったりするそうですが、いずれのからしづくりでも基本となる「種」は限りなく100%近くが外国産なのです。

かつて、昭和30年代までは国内でも「からし」をつくっていたのですが、小さな種を選別したり、乾燥させたり、その手間の多さと見返りのコストを比較するととても割が合わないようで、いまではほとんど、少なくとも商業用途ではつくられていないようです。

でも、そんななか、京都府の綾部市郊外、そう、日東精工が本社をおく街で、和がらしづくりにチャレンジしはじめたご夫婦がいます。

食の自給率を高めないといけないとか、偏狭に純国産がいいといったことではなく「自分たちで丁寧につくった本物の味を知ってもらいたい。おいしいもの、安心なものを届けたい」ということのようで、「その志よし！」と応援したくなりますね。

その「和からし」づくりのきっかけを聞くと……、調理人でもあるご主人が、ある素晴らしい「豚肉」と出合い、それではこの肉を使って究極のトンカツをつくろうと思いたちます。

パン粉は天然酵母のパンを使い、小麦も、卵も自分たちが知っている最高のものをそろえ、自分たちで栽培したトマトなどの野菜をつかってトンカツソースも手づくりしてと準備しているうちに、トンカツといえば「からし」も欠かせない、「からし」を吟味しようとして、国産の「からし」がないこの状況に気がついたそうです。

このエピソードから、「ほんものを究めようとすると、さらに新しいことへの気づきが生まれる」というビジネスヒントを導きだすことができますね。そして目的をもって動き出すと、どんどん新しいつながりも生まれてくるでしょう。この和からしづくりのご夫婦も、からしづくりがゴールではなく、さらなる次の一手も考えられているようです。

「まだまだ身近なところに新しい発見がある」と情報のアンテナの感度を高めていきたいものです。いずれにしろ和がらしにちなんで、日々の暮らしに適度なスパイスを取り入れていきたいものですね！

連載㊼ あやべ ちょっと寄り道

花めぐり 2022

「きょう花はいっぱい咲いている。しかも明日咲く蕾もいっぱい」。これは当社人財教育本『人生の「ねじ」を巻く77の教え』にも登場する言葉で、「常に次を考えよ、明日に備えよ」という戒めでもあるのですが、3月、まさに花の季節到来です。

日東精工が本社をおく、あやべでも春の観光ガイドとして「花めぐり2022」が発行されました。梅林公園の梅からはじまって、山家城址公園の桜、楞厳寺のミツバツツジ、水源の里で見られるシャガやミツマタの群生、……とまさに花の連鎖がはじまります。毎日がはなやかな気持ちでいられますように！

発行：日東精工株式会社経営企画室
当社ホームページでは本ニュースレターのバックナンバーほか、事業や新製品のより詳しい情報を閲読いただけます